

まいづる

次号の折り込みは1月16日(月)

〈舞鶴市ホームページ〉 <http://www.city.maizuru.kyoto.jp/>

※携帯電話用ホームページは下のQRコードから。



まいづる花図鑑

スイセン



ヒガンバナ科 見ごろ…1月～3月

中国から渡来し、野生化したといわれる多年草。海岸近くに多く自生することから海流に乗って漂着したとの説もある。地下に球形の鱗茎があり、数枚の線形の葉が集まって生える。早春に葉の間から花茎を伸ばし、白色で中央に皿状で黄色の副冠がある数個の花を横向きにつけ、よい香りを放つ。鑑賞用に多くの園芸品種が作られている。名前の由来は、漢名の「水仙」から。

協力=瓜生勝朗 市文化財保護委員 (植物分野)

今号の主な内容

人権教育・啓発推進計画(案)に意見を(2ページ)、市指定文化財田辺籠城図2件を新たに指定(3ページ)、新春特別企画「まいづるクロスワードパズル」(4～5ページ)、多々見市長の「匠」探訪記(8ページ)

未来を照らす希望の光

“絆”大切に、幸福の実現へ

五老岳から望む日の出(12月18日)



新年の「ごあいさつ」



「まちを思う心」を一つに



舞鶴市長 多々見良三

東日本大震災および福島第一原子力発電所事故を抜きに語ることはできません。市長という役職や市役所を強く感じたからです。その表現の形はそれぞれ異なりますが、「まちを思う心」は共通しているという思いを強く抱きました。

しかし、「悲しい顔」や「生きる望みを失った顔」、「無関心な顔」よりも「笑顔」や「達成感のある顔」の人が多く、まちのほうが良いことだけは確かです。そして、そういうまちのために、汗を流す人が多いまちや「間違ったことに対して怒る顔」が多いまちもまた、とても素晴らしいではありませんか。

市民の皆様、あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、希望に満ちた新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

長い年月を要するであろう被災地の復興は、国を挙げた最大の課題であり、同時に私たちもその一端を担わなければならぬと思います。社会経済に大きな影響を及ぼし、生活の営みを変えてしまったこの大災害は、私たちの記憶に長く残るものとなるでしょう。

そんなまちの実現のためには、今年も現場へ向かって市民の皆様と実りあるコミュニケーションを持ち、共にまちの将来や夢について語り合い、その実現のためにあらゆる努力を惜しまない年にしていきたく強く願っています。

さて、昨年2月に多くの市民の皆様にご支援を賜り、市政を担当させていただいて以来、10か月が経過しました。

しかしながら、この出来事をもたらしたものは、人々の被害だけでなく、人々の絆や地域でのつながりの大切さの再認識であったこともまた事実です。そうしたことに思いをめぐらしつつ、私は、市長就任以来、市内各地を訪れ、また、さまざまな機会に多くの方々とお会いし、時には膝を交えて話をお聴きしたり、私の考えを説明したりするなどコミュニケーションを図ってきました。その都度感じたことは、舞鶴の将来には希望があるということです。

物質文明の発達が必ずしも国民一人一人の幸福感の向上に結び付いていない現状

その間、多くの市民の皆様や関係者の皆様のお力添えをいただき、中丹地域医療再生計画の修正案がまとまり、長年の懸案でありました医療問題解決の方向性が見出せるとともに、国により京都舞鶴港が日本海側拠点港に選定され、港を活用した地域経済の活性化に大きな弾みがつくなど舞鶴市の将来に明るい希望を持つて新年を迎えることができました。

昨年、市民の皆様からそれぞれに「まちを思う心」ということ。それは、市民の皆様からそれぞれに「まちを思う心」ということ。それは、市民の皆様からそれぞれに「まちを思う心」ということ。それは、市民の皆様からそれぞれに「まちを思う心」ということ。

新年のごあいさつといたしまして、

一方、昨年、何とい

史的な惨禍をもたらした

新年のごあいさつといたしまして、